

# NEWS LETTER vol. 5 <2007年8月号>

## ■【トピックス】 与党惨敗！



7月29日（日）に行なわれた参議院選挙の結果は、予想を上回る自民党の惨敗でした。

安倍総理の年金や政治資金への対応のまずさが、今回の結果の要因であることは間違いありません。

今後も続投するようですが、他人の言うことに耳を傾けない中小企業のワンマン経営者の姿と首相の姿が重なって見えるのはわたしだけでしょうか？

今後の政局が心配になった選挙でした。

## ■【ビジネス・アイ】 企業再生（その1）

- 社長 「実は、知り合いの社長が大変みたいなんだ」  
花野 「どういことですか？」  
社長 「銀行が厳しく、いろいろ言ってくるようなんだよ。それにデュー何とかというのを受けるように言われているようなんだ」  
花野 「それは大変ですね。そのデュー何とかというのは、たぶんデュー・ディリジェンスのことだと思いますよ」  
社長 「そのデュー・ディリジェンスというのは、どういうものなの？」  
花野 「簡単にいうと企業内容の調査ですね。それも財務内容だけでなくあらゆることを徹底的に調べる調査です」  
社長 「それでいったい、だれがそれをするの？」  
花野 「普通は、公認会計士とか弁護士などの専門家がチームを組んでやることが多いですね」  
社長 「その目的は何なの？」  
花野 「お知り合いの会社の場合のデュー・ディリの目的は、会社の現状の把握です。それに困窮した原因の調査と再生の可能性ですね」  
社長 「調べてどうするの？」  
花野 「再生の可能性があれば、再生計画を立ててリストラとかして立て直します」  
社長 「再生の可能性がないとなったらどうなるの？」  
花野 「そのときは、最悪会社の清算か、銀行の持っている債権を債権回収会社へ売却することになりますね」

## ■【今月のキーワード】 デュー・ディリジェンス

デュー・ディリジェンス(Due Diligence)、略して「デュー・ディリ」とも言われますが、意味としては、「精査」と約されたりします。簡単にいえば企業の内容の徹底した調査です。

特にこれまでは、M&Aの現場における企業価値の調査を意味することがこれは多かったのですが、最近では企業再生のための調査でも良く使われます。

内容としては財務内容だけでなく販売・購買・労務・法務など企業をあらゆる点から調べつくします。

## ■【今月の1冊】

『暴力団フロント企業—その実態と対策』  
名古屋弁護士会民事介入暴力対策特別委員会  
編 民事法研究会 ¥2,200

反社会的勢力と呼ばれる暴力団も最近では、普通の企業とかわらない顔をしています。

このような会社は「フロント企業」、「企業舎弟」などと呼ばれ、上場会社もあるといわれます。

昔と違い知らないうちに、このような会社と取引している可能性があるのです。

この本は、少し前の本ですが、特に経営者には必読の書です。

第2部の事例編は手口も良く分かり具体的です。



## ■【編集後記】

いよいよ夏本番ですが、景気がいいのは大企業だけで、中小企業は相変わらず厳しい状況が続いていますね。

政局も流動的になってきましたが、何とかこの夏を乗り切りたいものです。

## 『NEWS LETTER』vol. 5（毎月1日発行）

●定価：2,400円/年 ●発行日：2007.8.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦丸ビル5F

TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808

<http://homepage3.nifty.com/binspire/>